

若手任期付き研究員の雇用実態調査の報告

Actual condition survey of temporal positions for youth scientists

江尻 省[1]; 吉村 玲子[2]; 尾花 由紀[3]

Mitsumu Ejiri[1]; Reiko Yoshimura[2]; Yuki Obana[3]

[1] 国環研; [2] NICT; [3] 九大宙空環境研究センター

[1] NIES; [2] NICT; [3] SERC, Kyushu Univ.

近年、若手研究者の雇用形態として、ポスドクに代表されるような任期付き研究職が急激に増えている。任期付き職には、学振や COE 特別研究員のように、全国の研究機関で共通しているものの他に、各大学、各研究所が、個別に設定しているものも数多くある。同一の研究機関・研究室の同じような業務に、複数種類の任期付き職研究員が携わっていることも稀ではない。これらの任期付き研究職の給与や保障、勤務時間や休暇の種類などの雇用条件や勤務形態は、それぞれの研究機関や研究室、その他によって様々である。今後の若手の男女共同参画のあり方だけでなく、若手研究者の研究生活のあり方を考えるとき、現在の任期付き職の雇用条件、勤務形態の実態を把握することは非常に重要である。そこで我々は、任期付き研究職の実態を把握するべく、色々な研究機関に所属する任期付き研究員に協力してもらい、雇用条件や勤務形態についての初期的な調査を行った。本公演では、この実態調査に至った経緯と内容、調査結果について簡単に紹介する。